釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）９月２日発行　VOL 23

論文作成の勉強から

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

２学期最初の１週間が終わりました。２学期は12月25日までの長丁場なので、ゆったりした始まりかと思いましたが、来月13日（金）の音楽祭に向けた練習が始まりました。今年度から学年合唱と縦割り合唱になりましたので、これまでとは状況が違い、試行錯誤の中での音楽祭に向けた練習開始となりました。前年度の取組を省察し、成果は生かし課題は改善していく、そのスタイルで学校行事をはじめ各種の教育活動が展開されています。見通しがもてず大変なことは多いですが、毎年新しい取組に学校全体で挑戦する。学校が動いている、そして、生きている、そんなことを実感しています。

さて、今週の土曜日（７日）に全道一斉に校長採用試験（論文選考）が行われます。釧路管内から約30名の教頭の皆さんが本試験に挑戦すると聞いています。激務の中で時間を見付けて試験勉強を続けている教頭の皆さんには本当に頭が下がります。皆さんの健闘をお祈りするばかりです。実は、６月から本試験に挑む教頭の皆さんと一緒に勉強させていただく機会が複数回ありました。過去に出題された論題に基づいて論文を作成するのですが、なかなか苦戦しました。自分が取り組んでいる実践を学校経営の策として論文を作成しようとするのですが、それだけでは原稿用紙が埋まりません。ちなみに北海道の論文選考は２時間で1,200字の論文を完成させなければなりません。空いたスペースを埋めるために、改めて文部科学省や北海道教育委員会から発出された通知や事務連絡、作成された資料等を読み返しました。その中で、2021年１月に中央教育審議会が示した答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」がとても勉強になりました。

「令和の日本型学校教育」という独特な表現は、従来からの「日本型学校教育」の成果や強みを確認するとともに、時代の要請に即した必要な改革を進めることで、これをブラッシュアップするという考え方から生まれたことが分かりました。そして、最も気になったことは「日本型学校教育」の課題です。答申には次のように記されています。「我が国の経済発展を支えるために、『みんなと同じことができる』『言われたことを言われたとおりにできる』上質で均等な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた中で、『正解（知識）の暗記』の比重が大きくなり、『自ら課題を見付け、それを解決する力』を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分になされていないのではないか」また、コロナショックに伴う「学校の臨時休校中、子どもたちは、学校や教師からの指示・発信がないと、『何をしてよいか分からず』学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないか」

２学期、学校生活で最も多くの時間を占める授業において、生徒たちが自ら課題を見付け、それを解決する力を培い、自立した学習者になることを、改めて目指したいですね。